

— 一般質問 (令和8年第2回中間市議会定例会)

令和8年3月5日

NO. 1

質問者	質問事項・要旨	指定答弁者
柴田 広 辞	<p>1. 行政の情報発信について「市民の関心に応じたプッシュ型情報発信の構築を」</p> <p>(1) 本市における行政情報の発信の現状について伺います。</p> <p>(2) 市民に行政情報が「届いているか」という点について伺います。</p> <p>(3) 行政情報の発信の考え方について伺います。</p> <p>(4) 分野ごとの行政情報をプッシュ通知で届ける仕組みについて導入できないか伺います。</p> <p>(5) 既存の情報発信ツールを活用すれば、市民の関心に応じたプッシュ型情報発信が可能であるか伺います。</p> <p>(6) 防災等の重要な行政情報の発信について伺います。</p> <p>(7) 今後の行政情報の発信のあり方について伺います。</p>	市長 担当部課長
阿部 伊知雄	<p>1. 学校におけるスマートフォンの取り扱いといじめや子どもの暴力行為を予防するための学校教育の取組について</p> <p>最近のいじめは、からかいや悪口など表面に見えるものもありますが、スマートフォンでのSNS内でのいじめが増えていると聞きます。また、中学生や高校生の暴力行為を撮影した動画の拡散も報道されました。</p> <p>(1) 現在、市内小中学校の児童生徒のスマートフォン保有率はどのくらいでしょうか。</p> <p>(2) スマートフォンの学校への持ち込みについての指導はどのようになっていますか。</p> <p>(3) スマートフォンの利用でSNSの活用など、学校でのメディア教育の現状はどのようになっていますか。また、その効果を市教育委員会はどのように考えていますか。</p> <p>(4) スマートフォンのSNS内でのいじめが発生した場合、学校の対応はどのようになっていますか。</p> <p>(5) 現在学校で行われている、いじめや暴力行為を予防する取組について教えてください。</p>	市長 教育長 担当部課長
	<p>2. 中間市の魅力アップのためのイベント等の開催とこれからの中間市の街づくりの展望について</p> <p>コロナが5類となり約3年になります。三密を防ぐため、今まで自粛していた、盆踊りやどんと焼きなど地域の行事や市のお祭りなどが少しずつ実施されるようになりました。イベントで、人と人が顔を合わせ会話をすることで、市民の連帯感が生まれます。周辺地域から中間市を訪れ、中間市に関心を持つ人が出てくれば、中間市の関係人口を増やすことができます。</p> <p>(1) 今年度、中間市で行われた中間市内や周辺地域の人々が集まるイベントにはどのようなものがありましたか。</p> <p>(2) 今年度、そのようなイベントに対する市民の満足度など、市民の声があればお聞かせください。また、市への経済効果やイベント実施の成果について、市はどのように考えていますか。</p>	市長 担当部課長

一 般 質 問

(令和8年第2回中間市議会定例会)

令和8年3月5日

NO. 2

質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	指定答弁者
阿 部 伊 知 雄	<p>(3) 中間市で生まれた高倉健さんに関するイベントの定例化は難しいのでしょうか。</p> <p>(4) 来年度、中間市内で行われる中間市やNPO団体が主催または後援するイベント、地域独自のイベント等の計画予定を分かる範囲で教えてください。</p> <p>(5) 中間市を今よりもさらに魅力ある街にしていくために、これからの中間市の街づくりの展望について、市長の見解をお聞かせください。</p>	市 長 担当部課長
森 上 晋 平	<p>1. 「生成AI活用を前提とした20%超の減税財源の創出」と情報の透明化及び法的義務に基づく「攻めの行財政経営」への転換について</p> <p>地方自治体は、地方自治法第2条第14項に基づき「最少の経費で最大の効果」を挙げる法的義務を負っています。市長は令和7年9月定例会において、この法的義務を達成するために「先端技術への積極的な投資を強く推進する決意と覚悟」を表明されました。また、「財政民主主義」の観点から、血税の使途や行政評価は市民に対して全文公開（フルディスクローズ）されるべきであり、それこそが予算編成における透明性と納得性の担保となります。先端技術が劇的な業務効率化を可能とした今日、市長の掲げた「投資」は、単なるツールの導入に留まらず、本市の予算構造を根底から見直す原動力とならなければなりません。</p> <p>「枠配分方式（シーリング方式）」という前例踏襲型の予算編成を脱却し、AI活用を前提とした事務効率化とゼロベースの見直しを断行すれば、約10億円、すなわち「市民税20%超」に相当する減税財源の創出は理論上十分に可能であると考えます。しかしながら、中間市公式HPにおける行政評価の公表が6年以上更新停止している現状は、市民の「知る権利（憲法21条）」を軽視し、法的義務たる「運営の合理化」を欠いていると言わざるを得ません。</p> <p>先端技術を駆使した聖域なき行革を断行し、まずは市民税「10%減税」を即座に実現し、さらにその先の「大幅減税」によって定住魅力を劇的に高める政治決断を下すべきではないかと考え、以下の項目について市長の所見を伺います。</p> <p>(1) 生成AI活用を「前提」とした減税財源の創出試算について</p> <p>人件費と物件費の計約55億円に対し、AIによる業務代替と事務の25%削減を断行すれば、最大10億円規模の財源が捻出可能であると考えます。AI活用を「前提」とした予算編成への転換及びAIによる行政情報の可視化・全文公開（フルディスクローズ）への決意を伺います。</p>	市 長 担当部課長

質問者	質問事項・要旨	指定答弁者
森上晋平	<p>(2) 総務省「新地方行革指針」に基づく「住民参加型レビュー」の断行について 指針が求める「住民参加による事業評価」にAIの分析力を組み合わせ、外部の視点で聖域なき事業の廃止・統合を行い、年間10～20%の事業費削減を目指す具体的指針を伺います。</p> <p>(3) 地方自治法第2条第14項に基づく「評価・予算・AI」の完全連動について 「枠配分方式」による予算編成が招く前例踏襲の弊害を排し、AIによる客観的分析を予算要求の必須要件とするなど、法的義務たる「最少経費」を実現するためのシステム構築について伺います。</p> <p>(4) 成果主義(アウトカム)に基づく「経営戦略型」予算編成への転換について 「AIに代替可能な定型業務」には従前の予算を付与せず、創出した余力を市民還元にあてるべきです。全事業の成果指標をAIで再定義する「ゼロベースレビュー」の導入について市長の所見を伺います。</p> <p>(5) 10%減税を通過点とした「大幅減税」による市民還元について AI活用と事業見直しで捻出される財源は、10%減税(4.2億円)を大きく上回るポテンシャルを有しています。まずは市民税「10%減税」を即時断行し、さらなる効率化の成果を「20%、あるいはそれ以上の減税」として市民に直接還元する覚悟はあるか、市長の真意を伺います。</p>	市長 担当部課長
	<p>2. 「稼ぐ力」の再生と「移動の自由」が創出する次世代型コンパクトシティ経営及びふるさと納税の構造改革とAIオンデマンド交通の運用戦略について 市長の示された施政方針について以下質問します。</p> <p>(1) ふるさと納税の「抜本的刷新」による財源確保と成果の検証について 令和7年9月定例会において、私は本市のふるさと納税における寄附額の激減を指摘し、外部委託業者のパフォーマンス不足と体制の見直しを強く提言しました。本市が断行した「委託業者の刷新」がもたらした具体的成果と今後の展望について伺います。</p> <p>ア. 業者刷新に伴うマーケティング戦略の質的転換について 新たなパートナー選定において、本市の返礼品が持つ潜在的価値をどう再定義したのか。旧体制の課題であった「訴求力の欠如」や「事業者開拓の停滞」に対し、新業者が導入した具体的な改善策について伺います。</p>	市長 担当部課長

— 一般質問 (令和8年第2回中間市議会定例会)

令和8年3月5日

NO. 4

質問者	質問事項・要旨	指定答弁者
森上晋平	<p>イ. V字回復に向けた数値目標と進捗状況について 業者刷新後、寄附件数やリピート率、新規寄附者の獲得数にどのような変化が見られるのか。令和8年度以降、かつてのピーク時に迫る増収ロードマップを明示して下さい。</p> <p>ウ. 寄附金の「出口戦略」としての事業連動について ふるさと納税を単なる一般財源の補填とせず、AIバスの運用維持や子育て支援策に直結させる「共感型投資」への転換を求めるが、市長の見解を伺います。</p> <p>(2) 2026年10月運行開始に向けた「AIオンデマンド交通」の多角的運用戦略について ア. 「民家300メートル以内」を起点としたアクセシビリティの確保について 高齢者が自宅近くからストレスなく乗降できるミーティングポイント(MP)の最適配置と、データに基づく柔軟な体制を確約できるか伺います。</p> <p>イ. デジタル・アナログの垣根を超えた利用支援体制について 「電話予約」の安定運用と、スマホ操作に不慣れな市民への具体的な普及啓発プランについて伺います。</p> <p>ウ. 広域商圏の構築と「関係人口」の取り込みについて 本システムを市外居住者にも開放し、本市の医療機関や商業施設を利用しやすくする広域経済戦略について伺います。</p> <p>(3) 「経済」と「福祉」の相乗効果による市民負担の軽減について ア. 移動の自由がもたらす「社会保障費」の抑制効果について AIバス導入を「フレイル予防」と位置づけ、将来的な介護給付費の抑制に寄与するという「予防DX」の視点をどう反映させるのか伺います。</p> <p>イ. 介護保険料引下げの「財政的担保」について ふるさと納税の増収分および効率化で生み出される財源を、介護保険料の引下げや据え置きにどう充当していくのか。市長の強い決意とともに伺います。</p>	市長 担当部課長
田口善大	<p>1. 今後の地域コミュニティ(校区まちづくり協議会)のあり方について (1) 地域コミュニティ(校区まちづくり協議会)の重要性について執行部の認識を伺います。 (2) 校区まちづくり協議会の設立目的について、昨年12月議会における堀田議員の一般質問内で答弁がなされましたが、確認のため再度伺います。 (3) 今後どのような方向性で地域コミュニティの強化を図り、市民の皆様のお力をお借りしながら校区まちづくり協議会を発展させていくお考えなのか伺います。</p>	市長 担当部課長

一般質問 (令和8年第2回中間市議会定例会)

令和8年3月5日

NO. 5

質問者	質問事項・要旨	指定答弁者
田口善大	<p>2. 定住支援と合わせた同居・近居の支援について</p> <p>(1) 本市が取り組んでいる定住支援についての現状を伺います。</p> <p>(2) 空き家バンクに関しては以前から強く推進し、有用な施策だと思うが、空き地に関してはどう対応されているのか現状について伺います。</p> <p>(3) 空き家に関する補助金制度に該当しない方や耐震化・省エネ化、太陽光発電や蓄電池導入を検討されている方等、様々なニーズを後押しするための使いやすい補助金制度を導入すべきだと考えるが、市の見解を伺います。</p> <p>(4) 昨年11月に愛知県蒲郡市に「蒲郡市三世代同居・近居住宅支援補助金」の視察に行かせていただき、大変勉強になりました。本市でもぜひ導入に向け動き出すべきだと考えますが、市の見解を伺います。</p>	市長 担当部課長
大村秀三	<p>1. 市立病院跡地について</p> <p>(1) 現状認識と停滞について 中間市立病院が閉鎖されてから数年が経過しましたが、現在も解体は進まず、活用も進まず、市民から見れば「止まったまま」に映っています。 この間、なぜ解体が進まなかったのか、市として把握している主な要因を伺います。</p> <p>(2) 解体費増額と説明責任について 解体費の増額という現実、閉鎖直後に解体していれば現在よりも大幅に安い費用で済んだ可能性がある、そうした声もあります。 ここで大切なのは、「高くなった・安くなった」ではなく、決断を先送りした結果、市民が損をすることになったコストについて伺います。</p> <p>(3) 機会損失の整理について 私は、お金だけではないと考えています。もっと大きいのは機会損失です。もし、早期に解体され、暫定でも広場として使えば、イベント・マルシェ・市民活動・防災拠点など中間市の賑わいづくりに活用できたはずですが。 この失われた期間を市としてどう取り戻していくかを伺います。</p> <p>(4) 段階的推進と工程・期限について 更地は何もない場所ではありません。可能性しかない場所です。市として、「解体→暫定広場化→将来構想」という段階的な進め方を探る考えがあるのかを伺います。</p>	市長 担当部課長

質問者	質問事項・要旨	指定答弁者
大村秀三	<p>2. AIオンデマンドバスについて</p> <p>(1) 想定課題の整理と改善体制について 10月の運行開始に向けて想定される、課題を整理し、改善していく体制は整っているのか、次の3点について伺います。 ア. 誰が(担当部署・責任者) イ. いつまでに(開始前の検証期限) ウ. どう改善するか(会議体・事業者との調整方法)</p> <p>(2) 予約手段について AIオンデマンドバスは便利な一方、予約の仕組みでつまずくと、一気に不満が噴き出します。 スマホアプリだけではなく、電話予約・窓口支援・地域での予約サポート等、利用者の状況に応じた複線化をどう設計しているかを伺います。</p> <p>(3) 乗降場所の設計について 利用者満足を左右するのは、家の近くまで来るのか、停留所方式なのかという乗降設計です。 「ここは乗りにくい」「ここも停めてほしい」という要望が必ず出ますが、それを反映する見直しの仕組みを用意しているかを併せて伺います。</p> <p>(4) 生活インフラとしての位置づけについて 市は本事業を交通政策にとどまらず、生活インフラとして位置づけているのか。また、「利用者数」「利用者属性」「予約の取りやすさ」「待ち時間」「乗り継ぎのしやすさ」「苦情・要望の件数と対応」などKPIを設置し、いつどの頻度で見直すのかを伺います。</p> <p>(5) 市長の覚悟と具体の確認について 止まっていた場所を動かす市立病院跡地、開始が決まっているAIオンデマンドバス、この2つを単なる計画ではなく、市民が「中間市は変わった」と実感できる具体の成果にする覚悟を市長の言葉で伺います。</p>	市長 担当部課長
原口佳三	<p>1. 高齢者の健康づくりについて</p> <p>(1) 市の取組みで介護予防教室をされていると思いますが、いくつかの自治会がしていて、どのくらいの頻度でしているのか伺います。</p> <p>(2) 健康づくりのため、自治会の中では自分たちで集まって活動している方がいます。その方たちに何かしらの支援はできないのか伺います。</p> <p>(3) 今、各地域の公園があまり使われていない様子が見られます。高齢者が散歩の途中に体を鍛えられるように、公園内に屋外健康器具を設置することができないのか伺います。</p> <p>(4) 加齢に伴って心身の機能が衰えるフレイル(虚弱)の背景があり、それには栄養が足りていない低栄養があると指摘</p>	市長 担当部課長

一般質問 (令和8年第2回中間市議会定例会)

令和8年3月5日

NO. 7

質問者	質問事項・要旨	指定答弁者
原口佳三	<p>されています。中間市では高齢者に対する低栄養のサポートがされているのか伺います。</p> <p>2. 障がい者の支援について</p> <p>(1) 今、重度の障がいのある方で自宅で介護をされている世帯がどのくらいいるのか伺います。</p> <p>(2) その方に対していろんな支援がされていると思いますが、中間市独自で支援をしていることがあるのか伺います。あるとしたら、どのような種類があるのか伺います。</p> <p>(3) 障がい者支援を受けている方の中には、例えば、タクシー券の交付を受けているものの、日常的にタクシーを利用する機会が少なく、結果的に未使用のままになる方がいます。支援を受けているにもかかわらず利用できないことに心苦しさを感じる方もいると聞いています。</p> <p>そこで、支援が有効に使われるように、世帯の状況に応じて複数の支援メニューから選択できる仕組みとすることができないのか伺います。</p>	<p>市長 担当部課長</p> <p>市長 担当部課長</p>
原舞	<p>1. 自殺対策について</p> <p>自殺対策基本法では毎年3月を「自殺対策強化月間」と定めています。そこで本市の自殺対策について伺います。</p> <p>(1) 第2期いのちを支える中間市自殺対策行動計画上のデータでは、令和2年以降の本市における自殺死亡者が急増していますが、このことについて市の見解を伺います。</p> <p>(2) 本市における自殺対策の主な取り組みを伺います。</p> <p>(3) 第2期いのちを支える中間市自殺対策行動計画でも取り組みを推進するために行うこととして、それぞれの担当課が管轄する取り組みが掲載されていますが、複数の課が連携し取り組みの推進を図る基盤ができているのか、また、対象となる相談者への対応が、一つの課のみならず複数の課で支援することができる体制が整備されているのか伺います。</p> <p>(4) 市内におけるゲートキーパー、いわゆる命の門番は何名か伺います。</p>	<p>市長 担当部課長</p>
掛田るみ子	<p>1. ポイント制度を活用した地域支援事業について</p> <p>新年度の新規事業として、地域ポイント制度を整備する「縁タメシティブラットフォーム事業」があげられています。これまで、介護ボランティアポイント、健康マイレージ、地域通貨として活用できる中間市ポイントなど、角度をかえながらポイント制度創設に関する一般質問を続けてきました。この度の事業に大きな期待をもって質問いたします。</p> <p>(1) 事業の名称の意味について</p> <p>(2) 事業の意義と目的について</p> <p>(3) 事業の内容について</p> <p>(4) 事業の運用開始の見通しについて</p> <p>(5) 事業に対する市長の思いについて</p>	<p>市長 担当部課長</p>

一 般 質 問 (令和8年第2回中間市議会定例会)

令和8年3月5日

NO. 8

質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	指定答弁者
掛 田 るみ子	<p>2. 高齢者を支えるサービスについて 高齢化の進展とともに、高齢者のみの世帯や独居高齢者が増えています。住みなれた地域で安心して暮らせるように、様々な取り組みが行われていますが、更なる充実を求め質問いたします。</p> <p>(1) 民生委員による一人暮らしの見守りの状況について (2) あんしん見守り情報キットの配布状況及び更新について (3) 緊急通報システムの活用状況と課題について (4) 防犯カメラや録画付きインターホンなど防犯設備費用の助成について (5) 高齢者サービスを集約した見やすいホームページについて</p>	市 長 担当部課長

一 般 質 問 (令和8年第2回中間市議会定例会)

令和8年3月6日

NO. 9

質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	指定答弁者
植 本 種 實	<p>1. 新しい病院について (1) 「なかま病院」が開院します。市民にとってはうれしいことであり、命・健康をまもる病院として頑張してほしいものです。 この新しい病院との連携をどのように考えられているのか伺います。</p>	市 長 担当部課長
	<p>2. 中間市新中学校施設整備実施計画(案)について (1) 中間市新中学校施設整備実施計画(案)が示され、現在パブリックコメントの最中です。今後の計画はどうなりますか。 (2) この計画で目的とする「次世代を担う教育の実現」は可能ですか。 (3) 案によると「中間中学校・中間東中学校」で約200億円の事業費がかかるようですが、財源はどのようにするのですか。「借金」はどのくらいですか。何年間でいくらずつ返すのですか。 (4) 先ほどの事業費には、備品や移転費用は含まれていませんが、いくらぐらいを見積もっていますか。また、クーラーは付いているのか、維持管理費はどのくらいかかるのか伺います。 (5) 中間南中学校に中間東中学校の仮設校舎を作ると計画にありますが、仮設ではなく、中間南中学校に新しい中学校の校舎を建ててはどうですか。また、中間中学校は底井野小学校の移設を見込んでいるようですが、小学校関係は何も決まっていません。既成事実を作るようなことはやめていただきたいと思いますが、見解を伺います。 (6) 学校再編検討委員会の答申書の終わりに「学校再編の取り組みについては、市の財政を考慮し、慎重に検討すること」とあります。このことについて、どのように考えられていますか。 (7) 子どもの教育は大事です。しかし、行政の行うことはこればかりではありません。この計画はかなり無理している、中間市はまた財政再建準用団体になるのではないかと心配します。中間市の体力に応じた行政を行うべきと考えますが、市の見解を伺います。</p>	市 長 教 育 長 担当部課長
	<p>3. 地域振興券について (1) 地域振興券事業は、「物価対策」と「市内商工の振興」として行われています。「物価対策」としては、30%のプレミアムが付き、市民にも好評ですが、「市内商工の振興」は不十分だと思います。 そこで、例えば、地域振興券を「中小店専用券」と「全店共通券」のセットにして販売するなど、市内中小店でしか使用できない券も発行すべきと考えますが、見解を伺います。</p>	市 長 担当部課長

一 般 質 問 (令和8年第2回中間市議会定例会)

令和8年3月6日

NO. 10

質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	指定答弁者
田 口 澄 雄	<p>1. 地域公共交通の市内全域での実施に向けた対応について (1) コミュニティバスについては、急な坂道が多い地区である通谷・太賀地区から始められ、西鉄路線バスの撤退を理由に川西地区でも始められましたが、10年近くたってもそのままの状態が続いています。市内全域での実施が求められています。その点で、今回計画中のAIオンデマンドバスの運行は、住民ニーズに応えるものになっているのでしょうか。計画内容について伺います。</p>	市 長 担当部課長
	<p>2. 水道料金改定の延期について (1) 物価高騰が止まらない中で、市民生活は困窮を極めていきます。そうしたことから、いろんな手立てが公的にも実施されています。 その一方で、中間市は1年間延期したとはいえ、水道料金の改定を予定しています。10トンでは83%の値上げという、とてつもない大幅な引上げ計画が提示されましたが、市民生活のことを考えると、さらなる改定の延期が必要ではないでしょうか。 また、そのための財政的措置を市としても考えるべきだと思いますが、市長の見解を伺います。</p>	市 長 担当部課長